

第2章 青少年の規範意識の現状

第1節 規範（遵守）意識の実態

近年、激増する少年非行の要因の一つとして、社会全体の規範意識の低下あるいは脆弱化が指摘される。そこで、本章では、本研究の大きなねらいの一つである規範意識の実態を明らかにするとともに、規範意識と逸脱行動との関係についても概観しておきたい。

本調査では、規範意識の実態を明らかにするに当たって、個人的色彩の強い規範（以下、個人的規範）ないしは規範的行為と社会的色彩の強い規範（以下、社会的規範）ないしは規範的行為を10項目挙げ、それらを「大切にしている」かどうか、つまり規範ないし規範的行為に対する遵守意識を尋ねることによって、規範意識を明らかにしようとした。それら10項目の規範ないし規範的行為についての高校生の回答は、表2-1のようである。

表2-1 規範（遵守）意識の実態（全体、%）

| | *大切にしている計 | とても大切にしている | 大切にしている | 大切にしてい | あまり大切にしている | 全く大切にしている | 平均点 |
|---------------------|-----------|------------|---------|--------|------------|-----------|------|
| 1. あいさつをきちんとする | 83.4 | 29.7 | 53.7 | 16.6 | 15.5 | 1.1 | 3.12 |
| 2. 相手の立場を理解するように努める | 91.0 | 37.7 | 53.3 | 9.0 | 8.5 | 0.5 | 3.28 |
| 3. 約束を守る | 92.9 | 46.2 | 46.7 | 7.1 | 6.7 | 0.3 | 3.39 |
| 4. うそを言わない | 66.2 | 15.8 | 50.4 | 33.8 | 29.1 | 4.7 | 2.77 |
| 5. 社会のルールを守る | 76.4 | 25.4 | 51.0 | 23.6 | 21.1 | 2.5 | 2.99 |
| 6. 人に迷惑かけない | 88.4 | 39.5 | 48.8 | 11.6 | 10.4 | 1.2 | 3.27 |
| 7. 公共のものや場所を大切に | 77.3 | 27.7 | 49.6 | 22.7 | 20.9 | 1.8 | 3.03 |
| 8. がまんをする | 76.7 | 29.0 | 47.7 | 23.3 | 20.1 | 3.2 | 3.03 |
| 9. 命や体を大切に | 89.9 | 59.1 | 30.9 | 10.1 | 8.4 | 1.7 | 3.47 |
| 10. 人に親切にする | 91.4 | 41.4 | 50.0 | 8.6 | 7.7 | 0.9 | 3.32 |

ここでは「とても大切にしている」と回答した者と「大切にしている」と回答した者をあわせた「大切にしている」合計の割合を用いて考察したい。各項目の中で最も「大切にしている」合計の割合が多かったのは「約束を守る」ことで92.9%、次に「人に親切にする」(91.4%)と「相手の立場を理解するように努める」(91.0%)が多い。これらの行為は対個人もしくは親しい身近な者の中で示されるものと見られ、個人的色彩の強い規範であるといえるが、青少年において、この個人的規範への遵守意識は高いことがわかる。

一方で、公共性と社会性を問う規範ないし規範的行為に対する青少年の遵守意識は非常に低い。10項目の中で、最も「大切にしている」合計の割合が低かった項目は「うそを言わない」で66.2%であるが、次に「社会のルールを守る」(76.4%)、「がまんをする」(76.6%)、「公共のものや場所を大切に」(77.3%)と続き、このような公共性と社会性を重んじる社会的規範への遵守意識の低さが認められる。

ところで、われわれは、回答した一人ひとりの青少年の規範意識の高さを測るために、各項目に対する回答を得点化し、個人ごとの規範意識を合計し、回答した高校生を規範意識が高い「高規範群」、規範意識が低い「低規範群」、規範意識が高規範群と低規範群の中間の「中規範群」の3つのグループに分けた。その分け方は次のとおりである。

まず、10項目の規範ないし規範的行動に対するそれぞれの回答に対して、「とても大切にしている」と回答した者に6点、「大切にしている」と回答した者に3点、「あまり大切にしていない」と回答した者に1点を与え、10項目の個人得点の合計を算出した。ここで、「とても大切にしている」と回答した者に6点という高い得点を与えたのは、「大切にしている」と回答した者の比率が高かったため、「とても大切にしている」と回答した者との差を重視したためである。その結果、回答者は全体として8点から57点までの間に分布していることがわかった。そこで、総得点の持つ意味を検討し、回答者のうち8点から29点までの者を「低規範群」、30点から44点までの得点の者を「中規範群」、45点から57点までの得点の者を「高規範群」とした。

その結果、高校生全体として、それぞれの規範群の男女別の分布は、表2-2のようになっていることが明らかになった。男子は合計人数989人で、低規範群に属する者はその28.8%にあたる285人である。女子の低規範群の割合は、1050人中の20.1%にあたる211人であることから、男子は女子よりも低規範群に多く分布している。反対に高規範群は、男子が989人の21.3%、女子は1050人の26.8%で、女子の方が高規範群に属する者の割合が高い。中規範群に属するのは、男子の49.8%、女子の53.1%で全体の約半数が分布している。

表2-2 規範群×男女別

| | 低規範群 | 中規範群 | 高規範群 | 計 |
|-----|------|------|------|------|
| 男子 | 285 | 493 | 211 | 989 |
| 男子% | 28.8 | 49.9 | 21.3 | 100 |
| 女子 | 211 | 558 | 281 | 1050 |
| 女子% | 20.1 | 53.1 | 26.8 | 100 |
| 計 | 496 | 1051 | 492 | 2039 |
| 計% | 24.3 | 51.6 | 24.1 | 100 |

現在の一般高校生の中で、特に社会性、公共性を重要視していないと見られる少年の一群が存在することは、少年の自己中心的で他者をかえりみない性質と自己利潤を追求する少年像を連想させ、このような一部の規範意識の低い少年が、他者を被害に巻き込む非行や犯罪を犯すようになるのではないかと考えられる。

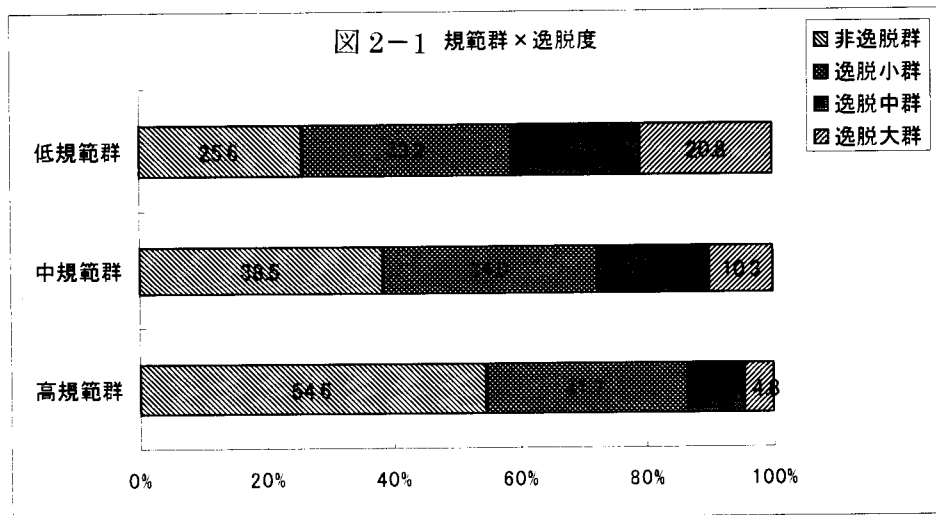
一方で、「相手の立場を理解するように努める」「約束を守る」といった個人的規範の遵守意識を問う項目を大切にしていると答えた者が多く見られるのは、自分の周りの人間関

係を良好に保つようにしたいという意識の表われだと捉えられる。現代青少年の意識のなかには、自分を中心に親交ある範囲を指す小社会が存在し、その中では良好な人間関係を保ちたいという利己的な欲求に基づき規範的態度を心がけていることを示すものであろう。つまり、社会一般のものや人を対象にした社会的規範意識が低く、比較的無関心な態度を示しているが、身近な友だち相手との関係を維持するためには「相手の立場を理解するように努める」「約束を守る」など、もしそのような規範を身につけていなければ、個人的な関係が維持できないような規範は比較的内在化されているのではないかと推察される。

第2節 規範意識と逸脱行動との関係

ここではさらに、高校生の規範意識のあり方が、彼らの逸脱行動とどのような関係にあるかについて、分析結果を示しておきたい。

図2-1は、逸脱行動度と、規範（遵守）意識群との関係を見たものである。



この図からは、規範意識と逸脱行動度の間には、明らかな相関があることがわかる。つまり、規範意識の高い群ほど逸脱的でない者の比率が高く、規範意識の低い群ほど逸脱度の高い者の比率が高いことがわかる。最も規範意識の高い高規範群についてみると、非逸脱群に属する者は54.6%と過半数を占めており、逸脱小群は31.7%、逸脱中群に8.8%と逸脱の度合いが大きくなるほどその比率は少なくなる。逸脱大群に属する者の割合はわずかに4.8%にすぎない。一方、規範意識の最も低い低規範群についてみると、逸脱的でない非

逸脱群に属する者の割合は 25.6%と他の規範群に比較して比率が低く、逸脱度が最も高い逸脱大群の比率が 20.8% と、他の規範群に比較してかなり高い。また、中規範群は、高規範群と低規範群のちょうど中間的な傾向を示している。

この調査結果は、規範意識が低い者ほど逸脱行動に走りやすく、高い規範意識をもつ者ほど逸脱的行動をとる者が少ないという、極めて明快な事実を示している。

第3節 まとめ

本章では、高校生たちの規範意識の現状を明らかにしたが、そこでは、①男子よりも女子の方がより高い規範意識をもつ者が多いこと、②全体として個人的規範意識はかなり高いともいえるが、それに比べて社会的規範意識はあまり高くないこと、③規範意識と逸脱行動度の間には明らかにかなり強い関連があり、規範意識が低くなるほど逸脱的な行動をとる者が多くなることが明らかになった。

副次的な文化としての非行文化との関連を考えると、一部の規範意識の低い青少年たちは、副次文化 (subculture) 的な非行文化の担い手になっているのではないかと考えられる。副次文化を共有する逸脱集団の中においては、円満な人間関係と純粋な仲間意識を尊重し規範的に接しあうことができるが、一方では、自己中心的志向の強さ、自らの副次文化への愛着、あるいは社会への反感や疎外感などのために、公共心を欠き、社会的規範を遵守する意識の欠如を招いているのではないかと思われる。